

## 狂言の稽古 開始です (NO.1)

10月12日(木)からは、大蔵流狂言方の山口耕道先生をお迎えして、狂言学習を開始しました。

この日の2校時は、5・6年生合同の狂言学習です。

山口先生、どうぞ  
 よろしくお願いま  
 す。



先生は、自分たちの  
 狂言を作るお手伝い  
 をします。頑張りま  
 しょう。

狂言は、650年も続きます。  
 平荘小学校の狂言学習は、今年で23  
 年目ですね。

大事なことは、先輩と同じように演じ  
 ようという意識より、**自分たちの狂言を  
 作ることです。**

先人の狂言は参考にしながら、自分た  
 ちの狂言を作っていくのです。

だからこそ、狂言は650年前から今  
 日まで続いているのです。



狂言は、650年前の室町時代に生まれま  
 した。

芸能は、奈良時代にもありました。人々を  
 楽しませるために、古代からありました。

平安時代には、散楽が生まれましたが、途  
 中で途絶えてしまいました。

南北朝時代から室町時代には、日本のオリ  
 ジナルの芸能が生まれました。

金閣寺を建てた足利義満が、能楽を好きに  
 なって、全面的にバックアップしました。こ  
 の国に定着するきっかけとなりました。

能楽は、武家社会の間で流行っていきまし  
 た。織田信長や豊臣秀吉、徳川家康等、自ら  
 演じたり謡を唄ったりしました。これが、武  
 士のたしなみとなりました。

江戸時代、能楽は、武家の式楽に定められ  
 ました。幕府の催しには、必ず能楽を演ず  
 ると決めました。そして、それぞれの藩に、命  
 じました。

現在の能楽は、江戸時代のものが今に伝わ  
 っているのではないかという学者が多いよう  
 です。

狂言のおもしろさは、お笑いです。  
 650年間、狂言がなぜこの世の中に受け入れ  
 られたか、それは、『笑い』にあります。

笑うのは大事なことです。

狂言では、いろいろな性格を演じます。元気な性  
 格、暗い性格・・・。

**人間の本质は、笑いです。** 笑う本能がありま  
 す。

どんな時に笑いますか？ おもしろい時、楽し  
 い時。落ち込んでいる時には笑えません。

狂言は、人々がもっている『笑  
 い』、朗らかな性格を刺激する表現  
 をすることで、観客が笑ってくれ  
 ます。

**一番大事なことは、演者が、何  
 もない所にあるように演技をする  
 こと、想像することが大事です。**



**扇子は、いろんなも  
 のに化けます。**

この扇子が銚子になり  
 ます。酒がこぼれる  
 ように見えますか。

「それ、それ、それ、  
 それ、それ・・・」と  
**言葉で助けます。** 言葉  
 で、酒の量や流れる速  
 さを表します。



おいしそうに飲んだと思いませんか？

喉が渇いた時に、水をいっぱい飲んだ時の経験が大事です。

**演者と観る側が合う瞬間にドキッとします。**

**6年生は、今年は、観る側から演技をする側にかわります。**

**大事なことは、観る人と演技をする人が一体になることです。**観る人がいなくなったら成立しません。

演技はその瞬間しか味わうことができません。一期一会です。



### 5年生が6年生とともに猿唄の練習をしました



笑う時は、は行が多いです。「はーっ、はっ、はっ、はっ・・・」「ひーっ、ひっ、ひっ、ひっ・・・」「ふーっ、ふっ、ふっ、ふっ・・・」「へーっ、へっ、へっ、へっ・・・」「ほーっ、ほっ、ほっ、ほっ・・・」

「はーっ、はっ、はっ、はっ・・・」が一番朗らかな笑いです。大笑いです。笑いを聞くだけで、気持ちがウキウキ楽しくなります。演技をするということは、少しオーバーに誇張して演技をします。日常とは違う感じですよ。

謡を唄っているうちに、だんだん気持ちが高揚してきませんか。言葉、リズム、メロディーを聞いて、ウキウキしてきます。